大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	G124110107265	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	鳥羽商船高等専門学校　情報機械システム工学科　高度情報工学コース設置
学校種	高専	都道府県	三重		

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	3月　情報機械システム工学科　高度情報工学コース　収容定員に係る学則変更届出予定	３月　情報機械システム工学科　高度情報工学コース　収容定員に係る学則変更届出	令和5年度自己評価　【２】計画を十分には実施していない。
	①　８月　新設コース設置のための必要設備の検討・入試制度の検討 ②　８月　企業からの非常勤講師の人材調査 ③　10月　キャンパスマスタープランに沿った校内施設更新の検討開始・外部からの助言 ④　10月　新設コースについての情報公開と学生募集案内・10月　新設コース周知のための中学校巡回訪問の実施 ⑤　10月　PBL活動に伴う教室管理システムの導入 ⑥　１～２月　文科省専門教育課と事前相談 ⑦　３月　文科省へ申請書類提出	①８月　新設コース設置のための必要設備の検討・入試制度の検討 ・令和５年度スタートアップ支援、令和４年度掛け合わせDXで導入した設備を踏まえ、新コースで活用可能な設備（金属対応3Dプリンタなど）を検討した。 ・新コースの設置に合わせ「高度情報エンジニア特別選抜」を設置することを決定し、案内チラシ、募集要項等の作成を開始した。 ②８月　企業からの非常勤講師の人材調査 ・高専機構本部と包括連携を結んでいるビズリーチでの公募を実施、副業先生として９名の実務家教員をリストアップし、担当科目を決定した。 ③10月　キャンパスマスタープランに沿った校内施設更新の検討開始・外部からの助言 ・芝浦工業大学建築系の研究室からの助言を受け、校内施設更新の検討を実施した。学生のアンケート調査等の分析により、学生が自由に利用可能なオープンスペース、コワーキングスペースの拡充が必要ということが判明した。 ④10月　新設コースについての情報公開と学生募集案内・10月　新設コース周知のための中学校巡回訪問の実施 ・新コース設置に関して、新聞に掲載され情報が拡散している。三重県教育委員会等へも挨拶、協力依頼し、講師斡旋などについて情報交換済み。中学校向けには、令和６年度入試と混同することを避け、令和６年春に募集チラシを三重県内の全中学３年生に配布することとした。 ⑤　PBL活動に伴う教室管理システムの導入 ・５号館新営について、当初予定していた場所に建設することが難しいことが明らかになった上、小規模な建物しか建たないことが明らかになったため、既存校舎の教室・実験室の利用案が大幅に変更となり、導入しようとしていた教室管理システムの設置場所が決定せず、令和5年度中に施工することができなかった。次年度繰越となった。 ⑥　１～２月　文科省専門教育課と事前相談 ・令和５年８月23日に校長・副校長で文科省専門教育課に相談、11月８日に来校いただき意見交換、３月19日に専門教育課とリモートで事前相談実施済み。 ⑦　３月　文科省へ申請書類提出 ・申請書類を提出済み。	５号館新営について、当初予定していた場所に建設することが難しいことが明らかになった上、小規模な建物しか建たないことが明らかになったため、既存校舎の教室・実験室の利用案が大幅に変更となり、導入しようとしていた教室管理システムの設置場所が決定せず、令和5年度中に「⑤PBL活動に伴う教室管理システムの導入」を実施することができなかった。5号館新営の設計を令和6年度の早期に開始し、新コースの学生が主に活動する実験室について、新営、既存含めて検討し、学生がアクセスしやすい管理システム導入を検討する。
令和6年度			令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
	①　４月　高度情報人材用機材整備 ②　４月　新設コース設置のための学習支援システムの整備 ⑬　４月　新設コース設置のための学習支援システムの整備【R5からの繰越分】（R7.1.8変更承認） ⑭　４～９月　企業からの非常勤講師の人材調査【R5からの繰越分】（R7.1.8変更承認） ③　５月　新設コースの入試制度（特別選抜）の整備と公開、適宜中学校巡回訪問 ⑮　５～３月　キャンパスマスタープランに沿った外部からの助言の検討開始・外部からの助言【R5からの繰越分】（R7.1.8変更承認） ④　６月　補正申請書提出 ⑤　７月　施設整備設計契約締結 ⑯　７月～１２月　カリキュラム・シラバス検討（R7.1.8変更承認） ⑥　８月　新規採用の教員公募準備（R7.1.8変更承認） ⑦　８月　分科会判定・答申、認可 ⑧　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑨　９月　設置報告書提出 ⑩　10月　特別選抜実施 ⑪　国際寮概算要求 ⑫　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 ⑰　２月　PBL活動に伴う教室管理システムの導入【R5からの繰越分】（R7.1.8変更承認） ⑱　３月　５号館新営設計業務（１年目）（R7.1.8変更承認） ⑲　３月　３号館２階321教室改修設計業務（R7.1.8変更承認）	①　４月　高度情報人材用機材整備 ・高度情報人材用の機材（Linux仮想演習基盤、AP、大型プリンター）については令和6年度の計画変更において、令和7年度購入と変更された。令和6年度では、機材選定を行った。 ②　４月　新設コース設置のための学習支援システムの整備 ・学習支援システム（ポートフォリオシステム）について、新設コースに対応するための機能強化としてソフトウェア改修を行った。 ⑬　４月　新設コース設置のための学習支援システムの整備 ・②と⑬は合わせて行ったため、同上 ⑭　４～９月　企業からの非常勤講師の人材調査 ・令和5年度のビズリーチによる公募で副業先生として決定していた９名の実務家教員について、単発での授業を実施した。年度進行により担当科目の実施される年度からこれら教員による授業を行う予定である。 ③　５月　新設コースの入試制度（特別選抜）の整備と公開、適宜中学校巡回訪問 ・新設コースの特別選抜の実施要項を整備し、ホームページでの公開、中学校教員向けの説明会（3回実施）および中学校巡回訪問を行った。 ⑦　５～３月　キャンパスマスタープランに沿った外部からの助言の検討開始・外部からの助言 ・キャンパスマスタープランを踏まえた上で新校舎設置場所を決定し、また変更計画により既設の校舎の教室改修についてそれらにかかる基本設計業務契約を行った。これらについては、三重大学施設部からの助言等を受けた。 ⑯　７月～１２月　カリキュラム・シラバス検討 ・新設コースを含む情報機械システム工学科のカリキュラムを検討し、完成年度の担当教員を決定した。 ⑥　８月　新規採用の教員公募準備 ・令和7年度採用予定であった実務経験教員は、既存の教員のエフォート管理によって新設コースへ対応することとなった。そのため新規採用はなくなり公募準備は実施しなかった。 ⑧　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ・特別選抜のための中学生向け公開講座を8月下旬に３回行った。 ⑩　１０月　特別選抜実施 ・新設コースの特別選抜を10月26、27日に実施した。 ⑫　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 ・新設コースを含む、情報機械システム工学科の推薦入試（1月12日）、一般入試（2月9日）を実施した。 ⑰　２月　PBL活動に伴う教室管理システムの導入 ・新設コースの学生が利用する実験室等に教室管理システムを導入した。 ⑱　３月　５号館新営設計業務（１年目） ・新営基本設計業務、新営設備基本設計業務について、入札・契約を行った。令和7年度に実施設計業務について契約を進めていく。 ⑲　３月　３号館２階321教室改修設計業務 ・教室改修設計業務契約を行った。令和7年度9月までに工事が完了する予定である。	⑤新規採用の教員公募準備については、実務経験教員から既存教員のエフォート管理によって新設コースへ対応することに計画変更した。そのため令和7年度での新規採用準備は実施しなかった。新規の教員が行う予定であった業務については、経験のある常勤教員が担当するため効率よく授業準備・教材開発が実施することができ、新設コースへの支障はない。 ⑦校内施設更新について、キャンパスマスタープランを踏まえた上で5号館新営校舎の設置場所を決定した。また変更計画により既設の校舎の教室改修についてそれらにかかる基本設計業務契約を行った。外部からの助言については、三重大学施設部からの助言を受けた。 ⑧カリキュラム・シラバス検討について、新設コースを含む情報機械システム工学科のカリキュラムを検討し、令和７年度の授業実施内容、および完成年度での科目担当教員を決定した。 ⑬５号館新営設計業務については、当初令和５・６年度中のを予定していたが、予定していた場所への建設が不可能になったことに伴い再検討の結果、計画変更により令和６・７年度での新営基本設計・実施設計業務の実施となった。令和6年度において新営基本設計業務、新営設備基本設計業務の入札・契約を行った。令和7年度に実施設計業務について契約を行う。5号館新営計画の計画変更で生じる遅れは既存建物の一時的な活用と改修の追加により教室等を確保するため支障はない。 ⑭３号館２階321教室改修設計業務については、５号館新営の計画変更に伴い既存の教室を改修して新設コースの教室等として使用する必要が生じたため、計画変更を行った。令和６年度において教室改修設計業務契約を行った。令和7年度9月までに工事が完了する予定である。

令和7年度	情報機械システム工学科　高度情報工学コース設置（入学定員40名）	情報機械システム工学科　高度情報工学コース設置（入学定員40名）	令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　４月　新規コース第１期入学生受け入れ ~~②　５月　５号館新営工事実施（初年度）~~（R7.1.8変更承認） ⑦　４月　５号館（仮称）新営設計業務（２年目）（R8.1.27変更承認） ③　４月　高度情報人材用機材整備 ⑧　７月　３号館２階321教室改修工事（R7.1.8変更承認） ④　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑤　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ⑥　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名	①　４月　新規コース第１期入学生受け入れ ⑦　４月　５号館（仮称）新営設計業務（２年目） ③　４　月　高度情報人材用機材整備 ⑧　７月　３号館２階321教室改修工事（R7.1.8変更承認） ④　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑤　１１月　育成選抜実施 ⑥　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名		
令和8年度			令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第２期入学生受け入れ ⑦　４月　５号館（仮称）新営設計業務（３年目）（R8.1.27変更承認） ②　６~~４~~月　5号館（仮称）新営工事実施（１２年目）（R8.1.27変更承認） ~~③　４月　高度情報人材用機材整備~~（R7.1.8変更承認） ④　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑤　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ⑥　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第３期入学生受け入れ ⑥　４月　５号館（仮称）新営工事実施（２年目）（R8.1.27変更承認） ~~②　４月　高度情報人材用機材整備~~（R7.1.8変更承認） ③　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ④　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ⑤　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名 ⑦　３月　３号館２階演習室改修設計業務（R7.1.8変更承認）			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第４期入学生受け入れ ~~②　４月　高度情報人材用機材整備~~（R7.1.8変更承認） ⑥　７月　３号館２階演習室改修工事（R7.1.8変更承認） ③　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ④　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ⑤　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第５期入学生受け入れ ~~②　４月　高度情報人材用機材整備~~（R7.1.8変更承認） ③　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ④　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ⑤　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第６期入学生受け入れ ②　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ③　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ④　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第７期入学生受け入れ ②　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ③　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ④　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　新規コース第８期入学生受け入れ ②　８～９月　特別選抜のための中学生向け講座開催 ③　１１~~１０~~月　育成~~特別~~選抜実施（R8.1.27変更承認） ④　１月、２月　新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学コース40名、総合工学コース60名）、商船学科40名			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

ⅲ）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、 令和7年度 の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①　地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、高専発!GEAR5.0事業(農林水産業分野)の中核拠点校として、農業・水産DXを推進している。「5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定」をKDDI、三重県、三重大等と締結しており、情報通信研究機構から「ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」を受託研究している。また、中電CTIとも包括連携を締結し、「黒のりの色落ち早期警戒情報」を発信。三重県と連携しして生研機構委託によるAIを利用した柑橘類の灌水システムの開発に取り組むなど、十分な実績がある。本校は商船高専であり、現在、海上輸送において急速に進んでいるDXの推進、自律運航などのデジタル・スマートシップ等などについて、大手海運企業やGX,DXを進める港湾をもつ自治体と連携して全学的にも高度情報人材の育成に発展的に取り組みつつある。	令和5年度から引き続きGEAR5.0事業(農林水産業分野)の中核拠点校として、農業・水産DX推進の取り組みを実施した。また「5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定」（KDDI、三重県、三重大等）に基づく取り組み、「ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」（受託研究：情報通信研究機構）についても継続実施しており、GEAR5.0の審査会にてこれまでの成果を報告した。「黒のりの色落ち早期警戒情報」の発信（包括連携：中電CTI）や三重県と連携しして生研機構委託によるAIを利用した柑橘類の灌水システムの開発も継続して取り組んでいる。 また、本校練習船「鳥羽丸」の代船が新造され、令和7年3月に最新の設備を備えた練習船として就航した。遠隔操船等が可能なデジタル・スマートシップとなり、遠隔操船のための教室の整備、設備の導入を行った。情報系の学生、教員もこれらの設備を活用し、DXの推進、自律運航など高度情報人材の育成に活用していく。 GX,DXを推進する大手海運企業や港湾をもつ自治体との連携について意見交換を行った。	

②　初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
これまで近隣小中学校への出前授業・公開講座としてプログラミング講座などを行ってきただけではなく、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって運営し、小中学校の子どもたちの発表の場を提供してきている。 今年度から市内の中学校では、月1回のクラブ活動として「プログラミング講座」を実施している。これは、小中学生が課外活動として取り組みたいとして希望が多かったことから実現している。このような活動を県内の小中学校で多く実施していく。本校の在校生が出身校の講師として対応することで、多くの小中学校での実践が可能になる。OECDの学びの羅針盤2030として、１．新たな価値を創造する力、２．対立やジレンマに対処する力、３．責任ある行動をとる力があげられている。これらはAARサイクルとともに各項の切口を通じて早期から情報工学に主体的に触れる機会を与えていく。	令和7年度は市内外の小中学校にてプログラミング講座を合計16回実施し、いずれも本校の在校生が講師や補助を務めた。それぞれの講座での開催アンケートを参考に、方法や内容を改善しAAR(After Action Review)サイクルを回している。 また、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって開催した。新たな価値を創造するような作品を出展してもらい、発表の場を設けた。令和8年度も継続実施していく。	

③　女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセント付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設の充実を図る。在学生が実施する女子中学生向けの講座等を実施、進学説明会等では多様な学生向けのブース設置をするなど、女子学生を積極的に受け入れる。高専GCONなどへの取り組みは継続していくとともに、これらの活動をSNS等で積極的に発信する。社会人向けには、リカレント教育を実施する。連携協議会の企業からは、新入社員の研修や学び直しについてAI/IoTなど情報系分野の要望があり、科目履修生として受け入れを進める。本校では、オンラインでの授業配信実績も多数あることから、企業にいながらの受講も可能にする。国際寮（多文化交流学生宿舎）の設置を計画要求しており、留学生と共に生活する男女日本人学生を増加させる。新設コースの国内外の学生を入寮させてグローバルなコミュニケーションを図る環境を用意する。	女子更衣室に姿見の鏡やヒーターの設置、一部の男女トイレに荷物置台を設置した。また、校舎の玄関ホールに机・椅子を設置し、くつろぎの場として活用するなど施設の充実を図った。 令和7年度のオープンキャンパスにおいて、午後の部で女子学生グループを作り、女子学生や女性教員と気軽に話せる機会を設けた。 また、通常の授業を中学生・保護者に見てもらえるように、オープンキャンパスとは別の通常授業日に授業・部活動見学ツアーを１１月３日の午前と午後の2回実施した。 高専GCONでは、「"燃やさない"選択で未来を守る−流木活用によるCo2削減と地域支援−」というタイトルの元、地域の課題に対する技術的な取組みを発表した。 社会人向け教育としては、農業を対象としたAIを用いた画像解析に関する研修を1件行った。 SNSでの発信は引き続き積極的に実施しており、InstagramやXにおいて学生の日常風景やコンテストの結果などを配信している。 国際寮については引き続き要求中である。	

④　他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
三重大学大学院工学研究科情報工学専攻においても、本事業での定員増を検討しており、本校の専攻科を修了した学生がさらに高度な学修を希望する際の受け皿となる。上述した海洋DXの推進事業において、同大学生物資源学科とは連携を始めており、今後は本校卒業生が三重大学の修士・博士の学生として研究を継続して推進していく素地となる。 また、GEAR農林水産業において、函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携した農林水産業のDX推進に取り組んでいる。すでにウニの陸上養殖や柑橘栽培でAI/IoT等をフル活用しており、今回の高度情報人材育成を進めることで、これらの社会実装・人材育成が加速する。	本校と三重大学において、三重大学大学院修士課程までの教育研究を前提とした協定「三重大学工学部・鳥羽商船高等専門学校連携教育プログラム」を締結し、本校専攻科と三重大学工学部の両方に在学することを可能とした。本校学生が三重大学の大学・大学院の学生として研究を継続して推進していくことができるこの取り組みについて学生への説明会を行った。今後もこの取り組みを推進していく。 海洋DXの推進事業においては三重大学大学院生物資源学研究科、鳥羽市、鳥羽水族館等も含めて「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」を締結しており、研究・教育で連携を進めている。令和7年2月に伊勢志摩にある海洋・水産機関による研究成果発表会において「ブルーカーボン貯留量の自動算出システムの開発」についての報告を行った。 さらに、GEAR農林水産業においては、引き続き函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携して農林水産業のDX推進に取り組んだ。令和7年9月には「GEAR5.0農水　サマーキャンプ in 和歌山」で起業を意識したビジネスプランの発表会に参加した。 これらにより社会実装を通じた高度情報人材育成を進めている。	

⑦　文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和４年度にリテラシーレベル認定済み。 令和５年度に応用基礎レベルの認定へ申請予定	令和４年度、リテラシーレベル認定済み。 令和５年度、応用基礎レベル認定済み。	

高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

(1)

改組組織名	情報機械システム工学科　高度情報工学コース

大区分	小区分	項目	単位	年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
				改組状況	選定・届出	届出	開設																
	事業計画に定める定員	入学定員	人		-	-	40	40	40	40	40	40	40	40									
		編入学定員	人																				
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人		-	-	40	40															
		入学者数(B)	人		-	-	40	41															
		女子学生数	人		-	-	11	12															
		社会人学生数	人		-	-	0	0															
		留学生数	人		-	-	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍		-	-	1.00	1.03															
	収容定員等	収容定員(C)	人		-	-	40	80															
		編入学定員	人		-	-	0	0															
		在籍者数(D)	人		-	-	40	79															
		編入学者数	人		-	-	0	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍		-	-	1.00	0.99															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人		-	-	-																
		進学者数	人		-	-	-																
		その他	人		-	-	-																
		進路不明	人		-	-	-																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人		-	-	6	4															
		授業科目の単位数	単位		-	-	10	11															

高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

２.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	80	80	100	100															
		入学者数（B）	人	84	80	100	100															
		女子学生数	人	14	8	23	20															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.00	1.00	1.00															
	収容定員等	収容定員(C)	人	400	400	420	440															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	412	401	423	432															
		編入学者数	人	5	5	8	10															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.03	1.00	1.01	0.98															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	80	71	83																
		就職者数	人	57	58	64																
		進学者数	人	23	13	15																
		その他	人	0	0	4																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	10	10	15	14															
		授業科目の単位数	単位	23	22	84	110															

高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）

３.高等専門学校全体の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	120	120	140	140															
		入学者数（B）	人	124	122	141	141															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.02	1.01	1.01															
	収容定員等	収容定員（C）	人	640	640	660	680															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数（D）	人	635	632	657	670															
		編入学者数	人	5	5	8	10															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.99	0.99	1.00	0.99															

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
外部資金獲得額	千円	63,509	63,197	53,388																

特記事項

学生の入学・在籍状況（収容定員）の編入学定員の０人とは若干名を意味している。